

# ①ズボ釣りスタイル

足もとの護岸やテトラの際に仕掛けを落とし込んで待つ手軽なスタイル。扱いやすいシンプルな仕掛けとあり、手返しよく探れる利点があります。

主なターゲット…メバルやガシラといった根魚・ハネ・チヌなど

## 竿：筏竿1.5～2 疋

護岸際やスリットの継ぎ目など、竿下がメインポイントになるため取り回しのよい短竿がベスト。アタリをとりやすく、食い込みのよい柔軟な穂先を持つ筏竿が理想的ですが、全体的にやわらかいコンパクトロッド（テトラ竿やバスロッド）でもOKです。

## リール：小型両軸リール

仕掛けを直下に落とす操作がしやすい両軸リールが理想的です。50疋ほど道糸を巻けるタイプであれば種類は問いません。もちろん、小型のスピニングリールでもOKです。

## サルカン（スイベル）

中通しオモリが抜けにくい大きさを選択しましょう。スズキやチヌといった大物も期待できる魚種を狙うときは8～10号クラスを使うのが無難です。

## ハリ：エビ撒き専用バリ5～7号、メバルバリ7～8号、チヌバリ2～3号

エビ撒き用の他、ターゲットに合ったハリがおすすめです。軸が細いタイプほど刺し餌のシラサエビが弱りにくいという特徴があります。

## 道糸：ナイロン2～3号

しなやかで扱いやすいナイロン素材が一般的です。号数は2～3号が標準。この太さであれば70疋級のスズキにも対応できます。長さは、深いところや沖めを狙うわけではないので50疋ほどで十分です。

なお、テトラや支柱回り、スリットケーンなどの根ズレしやすいポイントでは耐摩耗性に優れたフロロ素材も視野に入れましょう。

## 中通しオモリ2～6号

丸玉タイプを使用するのが一般的ですが、形状は特にこだわる必要はありません。強いていえば、オモリとサルカン部が干渉する際に起こる結び目の劣化を防げるゴム管つきのタイプがおすすめです。

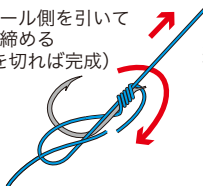
選択する重さは、狙いのタナの深さや、潮流の速さによってわかります。目当てのタナで仕掛けが安定する号数を選びましょう。

## ハリ：フロロカーボン1.5～3号0.5～1 疋

根ズレに強いフロロを使うのが基本です。号数の目安は、メバルやガシラなどの根魚狙いなら1.5号、大物も期待できるスズキやチヌを狙うなら2.5号です。これに釣り場の形状を加味して最適な太さをセレクトしましょう。

そして、仕掛けを流すスタイルではないので長さは求めません。アタリの伝わりやすさと、カラミにくさを考慮して1 疋までにするのが基本です。ただ、長いほど餌がナチュラルに漂うという利点があるため、アタリが遠いときは1 疋以上取るのもアリです。

③ スプール側を引いて輪を締める（端を切れば完成）



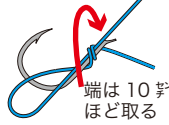
② 4～6回巻いたら折り返して下の輪に通す



スプール側

① ハリに沿わせたりスを折り返して軸に巻きつける

ハリの結び方 ※外掛け結び



端は10疋ほど取る